

歴史探訪

クラブ! History Inquiry Club



其の
128

文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

「光岩」

赤羽根環境センターの裏山、西山には、「光岩」と呼ばれる市の天然記念物があります。これは渥美半島の岩の大部分を占めるチャートと呼ばれる岩石で、一億数千年前にできたものです。この岩石が断層運動によつてずれ、表面がつるつるになつたのが「光岩」の正体です。チャートは、縄文時代の石器の材料や火打石にも使われるほどとても硬い岩石です。この岩石がずれてその面が鏡のように光ることから、かなり大き



●今も鈍く輝く「光岩」

な地殻変動が起こったことがわかります。中央構造線の断層運動の影響によつてできたと考えられ、その大きさは横22m、高さ9mもあり、全国屈指の大きなものです。
この説明を聞いただけでは「光岩」という名前は大きだと思つてしまう。しかしこの岩の前に立てば「本当に光っている」と驚くと思います。また別名「鏡肌の岩」とも言うように、銅鏡のような鈍い輝きを持っています。

「光岩」「鏡岩」と呼ばれる岩は全国にあります。その鏡を思わす輝きの神秘性から、信仰の対象、名所として親しまれ、言い伝えがある場合が多いのです。この「光岩」もきつと過去の文献に記されているはずだと考え、「たはら記」「村奉行手控」と呼ばれる江戸時代の歴史書を見てみました。すると、「若見村・（鏡岩 仏山に在 大サ三尺四尺 昔八人ノ姿見へ申候）、野田村・（鏡石 大明神山下二有之）、大久保村・（光り岩 富士尾山ニアリ大サ三尺二四尺程（古此ノ石ノ近クヨリ金出、夫より光り石ト申候）」との記録を見つけました。これは、残念ながら「光岩」の記録ではありませんでした。不思議なことに、どの岩も三尺（約1m）程度の大きさで、「光岩」の10分の1にも満たないものでした。それでも、「光岩」にはわずかですが言い伝えがあります。それは、「彼岸のときにだけ光る不思議な岩」「この岩は狐が恋人に会うときに化粧鏡として使っている」「狐が尻尾で表面を擦ったからよく光る」という話です。ひよっとしたら「光岩」はあまりにも大きすぎたため、神

秘性を越え、かえって恐がられたのではと疑つてしまひます。その大きさは、地球のエネルギーのすさまじさを見せつけているようです。

私たちが想像もできない、はるか昔の自然現象によつて生まれた「光岩」。現在、その場所に立ったとき、その神秘に酔いしれ、さまざまのことを想像してしまひます。
(増山)



今月の「表紙」

恋路ヶ浜から日出の石門を望む。沖の石門の近くから朝日が昇るのは10月と2月。年に2度しかないその光景をカメラに収めようと、1週間通いつめました。朝早く起きるのが苦手な私が、日の出前に車を走らせ海へ…。波の音を聞きながら朝日を浴びて始まる一日も、なかなか乙なものでした。(O)
【表紙の写真】恋路ヶ浜の朝焼け

広報 **Tahara** たはら
No.702 平成23年11月15日号
編集・発行／田原市役所政策推進部広報秘書課
電話／0531-22-1111 (代表)
Eメール／kohno@city.tahara.aichi.jp

本誌は再生紙を使用しています。